

平成18年度（2006年度）

小・中一貫教育 カリキュラムに関する研究（国語）

物語教材において、小学校・中学校9年間の各発達段階を通して、どんな力をつけていく必要があるのかを、小・中学校教諭合同で教材研究を進めるとともに、実際の授業のなかで具体的に検証していく。

研 究 員

箕面小学校	井 澤 富美子	第一中学校	酒 本 あゆみ
止々呂美小学校	山 下 景 子	止々呂美中学校	西 川 ひとみ
萱野小学校	宮 部 晃 子	第二中学校	小 松 万佑子
北小学校	原 田 みさと	第三中学校	岡 本 道 子
南小学校	吉 岡 久美子	第四中学校	高 橋 亜矢子
西小学校	松 田 幸 恵	第五中学校	渡 部 洋 子
東小学校	樋 口 雅 子	第六中学校	梶 原 郁 代
西南小学校	酒 井 知佐子		
萱野東小学校	北 村 雅 子		
豊川北小学校	新 居 三千子		
中小学校	霧 渡 晴 美		
豊川南小学校	滝 口 哲 司		
萱野北小学校	安 達 香 里		

スーパーバイザー

大阪教育大学 住 田 勝 助教授

はじめに

箕面市では、平成20年度（2008年度）、止々呂美における校舎一体型小中一貫校開校にともない、市内全域で校区連携型小中一貫教育の実施を予定している。

本研究会は箕面市内各小中学校20校より委嘱された研究員による、国語科・文学教材（物語・小説）における9年間を見通したカリキュラムづくりをすることが目的である。

I. 研究テーマ

「国語科における小中一貫を見据えたカリキュラムづくり」～文学教材の分析から～

II. 研究方法

カリキュラムには本来、指導要領の目標、内容レベルのものと、具体的な単元等教科書レベルのものがある。国語部会では、単に単元を並べた後者レベルの単元構成表等の作成に力を注ぐのではなく、前者の目標、内容レベルに即し、特に小・中学校9年間それぞれの発達段階でどんな力をつける必要があるのかについての研究に取り組んだ。スーパーバイザーとして大阪教育大学の住田勝助教授を継続的に招き、年間を通してご指導いただいた。

（留意点）

小・中学校の研究員が肩を並べて、小学校教材、中学校教材の研究を深めることから始め、また机上の空論で終わることのないよう、それらを実際の授業実践を通して具体的に検証していくという手法をとって研究を深めていった。

III. 研究内容

月 日	内 容
4月21日	顔合わせ 止々呂美小中学校 実践報告 止々呂美中学校 西川 ひとみ教諭
5月18日	講話：「小中一貫国語科カリキュラムづくりの視点」 スーパーバイザー 大阪教育大学 住田勝 助教授
6月27日	小中学校合同 教材研究 小学校第4学年 下 「ごんぎつね」
7月21日	小中学校合同 教材研究 中学校第1学年 下 「トロッコ」
8月10日	教材分析（説明文） ワークショップ&ポスターセッション 小学校第6学年 上「川の自然」（大阪書籍）

9月 7日	止々呂美小中学校 授業公開に向けた教材研究 (小中一貫の視点をもって) 小学校 第4学年「世界一美しいぼくの村」 中学校 第1学年「空中ブランコ乗りのキキ」
10月25日	止々呂美小中学校 授業公開に向けた教材研究 (小中一貫の視点をもって) 小学校 第4学年「世界一美しいぼくの村」 中学校 第1学年「空中ブランコ乗りのキキ」
11月9日	止々呂美小中学校 公開研究授業 研究協議 止々呂美小学校 山下 景子教諭 止々呂美中学校 西川 ひとみ教諭
12月26日	授業公開に向けた教材研究 (小中一貫の視点をもって) 小学校 第2学年「かさこじぞう」 中学校 第1学年「トロッコ」
1月10日	公開授業に向けての指導案検討 小学校 第2学年「かさこじぞう」
1月24日	公開授業研究 研究協議 南小学校 吉岡 久美子教諭
2月 7日	公開授業研究 研究協議 第六中学校 梶原 郁代教諭 一年間のまとめ

◆教材研究および研究授業・研究協議より見えてきたこと

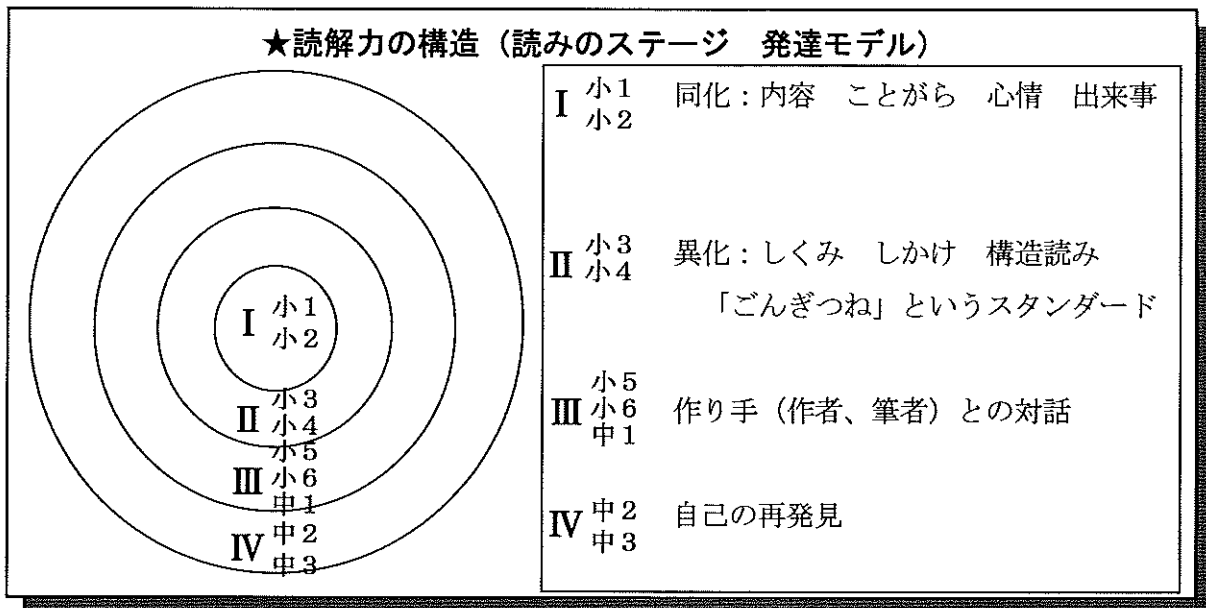
後期	中期	前期	
<p style="text-align: center;">情景描写⇒心理描写 冒頭と結末 対比 つながり ひびきあい</p> <p style="text-align: center;">鮮明</p>			
<p>中2 中3</p>	<p>『トロッコ』</p> <p>『空中ブランコ乗りのキキ』</p> <p>中1 小6 小5</p>	<p>『ごんぎつね』</p> <p>『世界一美しいぼくの村』</p> <p>小4 小3</p> <p>『かさこじぞう』</p> <p>小2 小1</p>	<p>教材名</p>
<p style="text-align: right;">つけたい力 求められている力</p> <p style="text-align: right;">語彙数</p> <p style="text-align: right;">辞書を引く力</p> <p style="text-align: right;">人物によりそい、同化しながら読み取る力 民話Ⅱスタンダード</p> <p style="text-align: right;">「結末」からそれまでの叙述に立ち戻り構造を読み取る力</p> <p style="text-align: right;">自分の体験を説明する力 自分の入り込んでいる人物なり状況から、一歩引いて、対象化することができる</p> <p style="text-align: right;">小学校の学びの総点検 作者、筆者なりの工夫を実感しやすい作品 作品の構造を自覚的に分析的に読み取る力 作品の構造をつかむてがかり</p> <p style="text-align: right;">自分とのかかわりでもう一度読み味わう力 少し引いて外側からもう一度見つめなおす 時間の二重構造</p>			
<p style="text-align: right;">「読みの学習」のポイント</p> <p style="text-align: right;">動作化 吹き出し</p> <p style="text-align: right;">同化体験をしつかりと 登場人物によりそっていく 人物の立ち位置に子どもたちが立てるか 物語に入り込んでいく読み</p> <p style="text-align: right;">主人公になつた上であなたは主人公をどう思いますか？</p> <p style="text-align: right;">同化をくぐった異化の読み 同化していない人に 異化やっても意味はない 単なるスキル</p> <p style="text-align: right;">少し客観的に読む</p> <p style="text-align: right;">主人公と登場人物の関係（人物が設定された理由）を考える</p> <p style="text-align: right;">小説の学びの入り口 中学校でこそ学ぶ要素 文学の基礎基本</p>			

構造等		その他	
入門期 幼児期とのつなぎ	基本的物語構造（土台） 物語はこういうものなんだと 思い起こすスタートライン	作品のなかにはいろいろこんで、人物や状況にもいろいろこんでリアルに体験する低学年	スタンダードな作品に数多く触れ、さまざまな「読み」の方法（物語の構造やしかけ等）をしっかりと身につけていく時期 （小4はまとめの時期）
物語のしかけ、構造の標準形 しかけをしつかりと読み解く体験を。	それを少し対象化して、その自分の体験や作り出している物語のしかけや構造に気づいていく 小・中学年	さまざまなパターンの作品に出会い、小4までに身につけた力を駆使して自覚的に意識的に読み取っていくことが要求される時期	書き出しに場面設定がきっちり と述べられている「安定した形」 の物語文
標準をふまえた応用学習 しかけてくる作者と対話しはじめる 意図のはっきりと表れた物語構造 自我へのまなざし 作者との対話	そのしかけを自分にむかっていく投げかけていく作者に気づいていく、そういうやりとりを始める中期	読み手の自由な発想に委ねる要素の強い冒頭など「多様な構成」による物語文	
小説単元の出発点 対話から自己への再発見 自分にとってどういう意味をもっているのか			

こうした取り組みを通じて確かめられたのは、精細な教材研究を通じて教材の特性を確かめ、それを前期、中期、後期のカリキュラムのフレームとして構成していくことの重要性であった。子どもたちが読んでいく文学作品の中から、その系統性は見いだされなければならないのだ。今回の一連の事業は、そうした泥臭い地道な努力が、大きな成果をもたらすかもしれないという、一つの実践研究の可能性に道筋をつけるものであったと考えられる。

IV. 研究のまとめ

住田助教授 講話「1年間のまとめ」より、次のような提言をいただいた。



I ステージ（小1 小2）

登場人物の立場にたつて、かかれたことにそつて、同化的に心情や出来事を読んで体験していくステージ。登場人物の立場に立っている子と、立場に立とうとしない子の落差は大きい。表現された言葉にそいながら、ていねいに読み取りながら、描かれた世界に入り込んでいく。切実な入り込みと驚き、納得などの感動体験を、この時期にしっかりとさせておくことが求められる。

II ステージ（小3 小4） 基礎基本の段階

しくみ、しかけ、構造読みを到達点に。

自分の入り込んでいる人物なり状況から、一歩引いて、対象化するステージ。⇒異化

同化できる力がついていない児童に異化をやっても形式的なものとなってしまう。入り込んで、事柄や内容にそつて、なるほどと思っていない人に構造分析しても、単なるスキルとして身につくだけである。つまり「入り込んで、登場人物になって、そういう人物をどう思うか。」そういう学力が求められる。第Iステージの体験を対象化していったん外からながめることで、もう一度第Iステージで感動したことをもっと深く読めるような力が求められる。「なるほど、こんな書かれ方しているからおもしろいんだ」という感じ方ができる段階。Iが空洞だと、形式的なものになってしまう。

小学校中学年で学ぶべき物語といえは『ごんぎつね』といわれるようなスタンダードを最後に学んで前期がおわる。4年生の最後で読みの基礎基本が『ごんぎつね』という学習で完成する。

Ⅲステージ（小5 小6 中1） 応用段階

読みのスタンダードをもった子どもたちが、スタンダードでないものにチャレンジしていく段階（応用段階）。なんでこんな書き方になっているのかを考えると、この物語は、スタンダードからするとこんな特徴があると気づいていくためのものさしを、この段階でもっていることが重要である。構造を踏まえながらその構造を作った人を思っていく段階である。なぜこんな始まり方をしたのか、なぜこんな書き方をしているのか、なぜと思った瞬間に、書いている人のことを思わなければ解決できない。

つまり自分にどんなことを投げかけようとしているのかを、この作品を媒介として対話し始める段階。作者との対話をするための根拠としての作品の構造を読めないといけない。第二ステージの力がない子にとって、作者との対話というのは、読み深めていくための手がかりとはならない。

Ⅳステージ（中2 中3）

作者と対話しているうちに、それは自分にどういう意味があるのか、自己の再発見、最吟味、自己との対話等、最後は自分にかえてくるステージ。

自分自身のあり方を一生懸命考えていく力を中学3年生の終わりまでにつけて社会に送り出していくというのをイメージしたい。

自分の物語体験があって、それをしくみの上で説明して、それをしかけてくる作者のことを意識しながら、それが自分にとってどんな意味があるのかということを考える。これは自分と世界のかかわりについて、自分と他者の関係についていろいろ思う精神発達の段階とリンクしている。読むことを媒介として、作者を意識しながら自分のことを考える、自分と社会、自分と他者、自分自身をもう一度考え直すんだ、という力を最終地点に求められる。

以上、これらが子どもたちの読みのステージの発達モデルであり、読むということを整理するための要素でもある。内容への反応がなければいけないし、構造への反応がなければいけないし、人への反応がなければいけないし、それが自分にとってどんな意味があるのかという反応がなければいけない。つまり読むという営みが4つの要素からなっているということである。これが「読解力の構造」となる。この構造がどのように発達していくのか、発達の道筋をあらわすことになる。

また、この発達モデルは、1つの授業あるいは単元の中で、子どもたちがどういうステージを動いていくのかを見る目にもなる。内容を構造でもふりかえてみようか、これにはどんな意味があるのだろうかと作者を意識した問いかけをし、またそれが自分にとってどんな意味があるのかといういくつかの段階のステージを、1つの授業の中で仕組んでもいいし、単元の展開の中で深めていってもいいのである。児童生徒は、授業の中でいろんな反応をしている。それ

らを「この子はこの段階でとどまっているな」「この子は作者との対話ができているな」と、子どもたちの今の到達度や読みの状況をとらえるための手段にもなるのである。

V 最後に

上記まとめのように、住田先生より、「義務教育到達点にどんな力をつけるのか」についてのご示唆をいただいた。今後、特にIVステージにおけるつけたい力について、教材研究を通して、授業実践で検証していくことが求められる。また、実際にそういう授業をどのようにしくめるのかを具体的に考えながら検証することも大切であると考えている。

【資料1】 止々呂美小学校「世界一美しいぼくの村」 指導案

第4学年 国語科学習指導案

箕面市立止々呂美小学校

指導者 山下 景子

- 1、日 時 平成18年(2006年)11月9日(木) 第5時限
- 2、学 年 第4学年(4名)
- 3、単元名 愛の心をえがいた物語を読もう
『世界一美しいぼくの村』(小林 豊) <東京書籍>

4、単元目標

- 人物の気持ちや場面の様子に注意して、物語の出来事の流れを読み取る。
- 愛の心を描いた本を読み、感じたことや考えたことを伝え合う。

5、指導にあたって

本教材は、作者小林豊が1990年にアフガニスタンを訪れた際にたずねた村をモデルにして書いた絵本「せかいいいち うつくしい ぼくの村」(1995年 ポプラ社)を底本として、教科書教材のために書き下ろしたものである。

果物がたわわに実るアフガニスタンの村、パグマンに住む主人公ヤモ。戦争に行った兄に代わり、ある日、ヤモは、父と初めて町へ果物を売りにいく。その1日の中で、兄への思い、父への思いを深めるとともに、さくらんぼを買ってくれた、戦争で足を失った男性の「パグマンのさくらんぼは世界一だ。」の言葉に郷土を誇りに思う気持ちも高まる。町からの帰りに父が買った真っ白な子羊。兄が帰ってくる春を思いながら、その子羊に「バハール(春)」と名付けたヤモ。しかし、その春を待たずして、「その年の冬、村は戦争ではかいされ、今もうありません。」という衝撃的なラストへと展開する物語である。

教育センター研究員小中一貫教育カリキュラムに関する研究国語部会および止々呂美小中学校の国語部会において、これまで教材研究を進め、今回の研究授業に至った。

箕面市では昨年度から東京書籍の国語教科書が採用された(2・4・6年生については実質今年度から)こともあり、私たちにとって、この『世界一美しいぼくの村』は絵本のほうが馴染み深い。まずは、読み比べるところから教材研究を始めると、教科書と絵本とでは叙述がところどころ違っていることがわかってきた。冒頭の部分や、主人公ヤモが町へ向かう街道での様子、さくらんぼがなかなか売れなくて困っている様子などがそうである。特に、絵本ではあとがきに書かれているアフガニスタンについての説明の一部を、教科書では物語の冒頭(書き出し)の叙述に持ってきているのである。なぜ、そうなっているか考えることが小学校中学年から高学年へ、そして中学校への学びのつながりを考える一つの視点となることが明らかになってきた。(止々呂美小中では小1～小4を前期、小5～中1を中期、中2・3を後期という三つのまとまりとして捉えて研究している。)

前期の最終段階にあたる小4の子どもにとっては、物語の「構成」としてこの冒頭部分は必要なものであるということである。小1から小4までの子どもたちは、書き出しに場面設定がきっちり述べられている「安定したかたち」の物語文を学習していくのである。その後、中期にあたる小6の『風切るつばさ』にある「それは、夕ぐれどきのいっしゅんの出来

事だった。」という書き出しとなり、同じく中期の中1では今回研究授業でとりあげる『空中ブランコ乗りのキキ』において「そのサーカスでいちばん人気があったのは、なんといっても、空中ブランコ乗りのキキでした。」という書き出しになっている。このように小学校から中学校の物語文・小説へとつながっていくのが見えてきた。小4までの「安定したかたち」の構成による物語文を読み取る力をつけておいたうえで、さらに、中期・後期で多様な構成による物語文に出会い、読みの力がさらに豊かになると考えられる。

また、この物語の衝撃的な結末を目にしたとき、子どもたちは、冒頭部分を思い出し、対比することによって、「冒頭で書かれていたこんな良い所が、こんな結末になってしまうのか」という思いを抱き、結末の悲惨さを浮かびあがらせる役割を冒頭部分が担う構成になっているのではないかと考えられる。

止々呂美の子どもたちは、このパグマンの村の美しい自然、果物がたわわに実る様子などに共感できる環境にある。四季折々の美しさを感じることでできる止々呂美の自然。ゆず、栗、山椒、びわ、しいたけ、米などが収穫できる喜び。4年生の4人の子どもたちも祖父母や父母とともに、収穫する経験をもっている。そんな止々呂美の日常や自分の経験をヤモの姿と重ね合わせながら、つまりヤモと自分を「同化」させながらこの物語を読み進めていくことで、さらに結末の悲惨さ、理不尽さを読み深めることができるのではないと思う。

この授業をするにあたって、「最後の一文」を子どもたちに見せないことにした。そのため、個人の教科書をあずかり、教科書をカラーコピーして、それまでの部分だけ配布することにしたのである。「続き」があることを子どもたちは知らない。本時の学習で、「最後の一文」を子どもたちが目にしたとき、どんな顔をするのか、どのような声をあげるのか…。戦争で破壊されたものは何なのかをじっくり考えさせたい。また、ヤモたちやパグマンはどうなっていったのか想像させたい。そして、最後に急展開する構成の効果を考えさせるとともに、こんな結末に至るまでの伏線がどこにあったのか、予感があったのかを改めてこれまでの叙述に基づいてふりかえって読んでいきたい。

6、学習計画（全11時間）

第1次（1H）

- ・P16の「最後の一文」を除いた全文を読み、初発の感想を書く。
- ・意味のわからない言葉を出させる。

第2次（4H）

- ①（P6・L3～P7・L14）アフガニスタンやパグマンについて書かれていること、主人公がヤモという小さな男の子であることを読み取る。
- ②（P8・L1～P10・L8）戦争に行つて不在の兄さんの代わりに、父さんの手伝いで初めて町に果物を売りに行つたヤモの気持ちを読み取る。
- ③（P10・L9～P12・L2）小さな女の子と足のない人がさくらんぼを買いにきたときの、それぞれのヤモの気持ちを読み取る。
- ④（P12・L3～P15・L14）父さんとおじさんの話を聞いているときのヤモの気持ち、子羊を買った父さんの気持ち、村へもどつてきたヤモの気持ち、子羊に「バハール（春）」と名付けようと思つたヤモの気持ちを読み取る。

第3次（3H）

- ①物語全体を振り返り、誰の誰（何）を思う気持ちが描かれていたか、どこに描

かかれていたかを確認する。

「ヤモの兄さんを思う心」「父さんのヤモを思う心」「ヤモの父さんを思う心」
「ヤモのパグマンを思う心」

② (P16) 最後の一文について考える。・・・<本時>

③まとめの感想を書く。

第4次 (3H)

「てびき」や「読書のまど」を参考にして、愛の心を描いた本を読み、感じたことや考えたことを伝え合う。

<初発の感想>

- A: 果物をお兄さんの代わりに売りに行ったのがすごいな—と思った。もし、ぼくだったら、ぜひ「いやだ」と言うと思うから、すごく勇気がいることだな—と思った。
- B: 「世界—美しいぼくの村」を読んで、最初は、自然がひろがってゆたかな村だと思った。でも、ヤモとポンパーがパグマンのさくらんぼを売りにいった時、パグマンのさくらんぼを買ってくれたおじさんの話が少しこわかった。
- C: 「世界—美しいぼくの村」と題名を聞いたとき、どんな村かな—と思った。果物がいっぱいある村だから、果物はおいしいんだ—と思った。ポンパーといっしょだったらいけることが、すごい。勇気を出して、大きな声で言えることがすごかった。このお話は、とってもいいお話だな—と思った。
- D: さくらんぼが、おいしそうな話だった。戦争がつづいているのに、なぜ、美しい村なんだ?—と思った。足がなくなるって、戦争はこわいな—と思った。戦争してるんだ—と思ったら、さくらんぼ売ってるひまがあるの?—と思った。もし、兄弟がいなくなったら、いやだな—と思った。

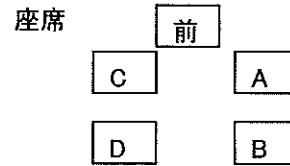
7、本時の目標

◎最後の一文について考える。

8、本時の展開

	学 習 活 動	教師の指導・支援
導 入	・これまで学習してきた物語の流れを振り返る。	・特に、ヤモの兄さんを思う気持ち、パグマンを思う気持ち、春を待つ気持ちをおさえる。
展 開	・この物語には続きがあることを知る。 ・最後の一文を目にしたときの思いをワークシートに書き、発表する。 ・「その年の冬」のもつ意味を考える。 ・何が「はかいされ」たのか、考える。 ・最後の一文の衝撃が大きいのはなぜかを考え、文章構成の効果について考える。 ・ヤモたちやパグマンはどうなっていったのか想像する。	・この物語には続きがあることを伝え、「最後の一文」を渡す。どんな反応を示すか、把握する。 ・率直な思いを出させる。 ・待っていた「春」の前である。悲惨さがより大きいことに気づかせる。 ・物語全体を振り返り、考えさせる。 ・最後の一文までのヤモの暮らしぶり描いた叙述と、最後の一文を対比させて考えさせる。 ・挿絵も参考にさせながら、自分の考えの根拠をもたせる。
ま と め	・次時の予告	・まとめの感想を書くことを伝える。

<ご高評欄>



<資料> 読み取りの中から出た子どもたちの考え

★足のないおじさんの「ううむ、あまくて、ちょっとすっぱくって、やっぱりおいしいなあ！ パグマンのさくらんぼは世界一だ。」という言葉聞いて。

- ・世界一なんて、とってもうれしいなあ。
- ・パグマンのさくらんぼは世界一だと言われて、ふあんだったけど、元気になった。
- ・ヤモは、とってもうれしかった。おんなじ物を作ってくれている人に、たべてもらって。
- ・うれしいと思った。理由は、おじさんが、自分たちの作ったのをおいしいと言ってくれたから。

★なぜお父さんは真っ白な子羊を買ったのか。

- ・お兄さんのかわり。
- ・家族をびっくりさせるため。
- ・羊がいたらにぎやかな家族になる。
- ・心配そうにしているヤモを見て、兄さんのかわりに。
- ・心配そうにしているヤモを喜ばせるため。
- ・心配をさせないため。

★「たった1日いなかっただけなのに、とてもなつかしいにおいがします。」にヤモのどんな気持ちが表れているか。

- ・自分の村のにおいは、すきだから。
- ・町でいろいろなことがあって、やっとおちつけるから。
- ・町に行っていたにおいで、パグマンのにおいがなつかしい。
- ・なつかしいけど、少しかなしい気持ち。

↓
兄さんがいないから。

★ハルーン兄さんが帰ってきたら、ヤモはまず何をするだろうか。

- ・遊ぶ。
- ・パハールをしょうかいする。
- ・兄さんがいなかった時のことを話す。
- ・市場での出来事を話す。

第1学年 国語科学習指導案

箕面市立止々呂美中学校

指導者；西川 ひとみ

1. 日 時 2006年11月9日(木) 第6時限目(14:40~15:30)
2. 学 年 1年(女子3名、男子4名)
3. 単 元 名 物語「空中ブランコ乗りのキキ」(別役 実作) <三省堂>
4. 単元目標 ○四回宙返りに挑むキキの生き方について考える。
○場面ごとの人物の心情とその変化を読み味わう。
5. 指導にあたって

本教材「空中ブランコ乗りのキキ」は、中学校3年間の物語・小説教材としては唯一のファンタジー系の作品として位置づけられている。ファンタジー系の作品としては、小学3年の教科書(東京書籍)に「ゆうすげ村の小さな旅館」が収録されており、読み取りのポイントとして「物語の『しかけ』」ということが取り上げられている。そこでは、「物語には、とちゅうでは気づかなくても、後で『あのことだったのか。』と分かるようなヒントがかくされている場合があります。このようなヒントは、物語をおもしろくするための『しかけ』の一つです。『ゆうすげ村の小さな旅館』でも、美月がウサギであることを表すようなヒントが、とちゅうでいくつか出てきましたね。れいにならって、どんなヒントがあったか、話し合ってみましょう。(れい)色が白い…ウサギの毛の色を表している。」と、説明がされている。

小中のつながりを意識した「読み」の力の育成をめざすにあたって、この作品の学習を通して「物語の『しかけ』」を読み解く体験をしっかりと積んでおくことが、小学5年の「注文の多い料理店」に描かれている世界を楽しみ、さらには本教材にたくさんしかけられている伏線や象徴(暗示)的な表現を主体的に読み解き、物語の面白さを味わう力へとつながっていくものと考えます。

また本教材は、書き出しが「そのサーカスでいちばん人気があったのは、なんいっても、空中ブランコ乗りのキキでした。」という漠然とした形で始まっており、小学5年ぐらいまで見られた「物語の読みの構え」を整えるという安定した冒頭の役割(「いつ」「どこで」「だれが」など)から、読み手の自由な発想に委ねる要素の強い冒頭の内容へと変化を見せている。このような物語の始まり方は、小学6年の「風切るつばさ」にも見られる。(「それは、タぐれどきのいっしゅんの出来事だった。」という書き出しで始まっている。)このような書き出しを持つ作品に接したときに、子どもたちが自分なりに設定された世界を頭に描き、物語の世界に入り込んでいくためには、小学4年までに出来るスタンダードな書き出しの作品において、物語を読み進めていくために必要な情報をきちんと読み取る力を養っておくことが必要であると考えます。

さらに、本教材は子どもたちに一見親しみやすいサーカスを舞台にしながら、主人公の「キキ」を通して人間の生き方や幸せとは何かといった問題について考えを深めさせる内容になっている。子どもたちは、キキの生き方をどう捉え、自分とどう重ね合わせていくか。

また、キキの価値観は周囲の人たちとの関係の中で形成されている。不思議な存在である

「おばあさん」や、ピエロの「ロロ」、「団長さん」、「観客」などの登場人物がキキにとってどのような役割で設定されているのかを考えさせることで、物語・小説の中でそれぞれの人物が設定されている意味を捉えながら読み深めていく力を培っていきたい。

今回の研究授業に至るまでに、教育センター研究員小中一貫教育カリキュラムに関する研究国語部会並びに本小中学校の国語部会で教材分析・交流を重ねてきた。そこで学ばせていただいたことが少しでも活かされるように、また生徒たちが主体的に活動する機会をできるだけ取り入れた形で本日の授業を進めていきたい。

6. 学習計画(全7時間)

第1次 物語を通読し、疑問や感想を抱き、物語に関心をもつ。(1時間)

- ・題名をふまえて、サーカスを見に行ったときの経験を思い出し、物語の内容に関心をもつ。
- ・全文を通読し、初読の感想を書く。【後掲】
- ・難語句の意味を確かめる。

第2次 表現の仕方を意識させながら、主人公キキを中心に他の登場人物との関わりを読み取り、場面を追って人物の心情と変化をとらえさせる。(5時間)

- ① 物語の書き出しに着目させ、その意味を考える。
 - ・〈導入部Ⅰ〉から主人公のキキの置かれている立場や心情を、周囲の人たち(観客・団長さん)との関わりの中で考える。
- ② 〈導入部Ⅱ〉からキキとピエロのロロとの生き方の違いを捉える。
〈展開部〉の表現からキキの心情の変化を考える。
- ③ 〈展開部〉の表現からおばあさんの役割や、キキの心情の変化を読み取る。
・「キャッチコピー(見出し)を考えよう!」という課題で、①三回宙返りができるキキを売り込むポスター、②ピピが三回宙返りを成功させたことを知らせる新聞、③キキの四回宙返りを宣伝する看板のキャッチコピーや見出しを、これまで学習したことを踏まえて考える。
- ④ キキと他の登場人物との関わりを考える。・・・本時
- ⑤ 〈山場の部〉～〈終結部〉を、表現に即して内容を読み取る。

第3次 第2次での学習をふまえて、作者が「白い大きな鳥」に象徴させて伝えたかったことや、登場人物の生き方や考え方について考える。

- ・物語の伏線(物語のしかけ)や象徴表現について改めて確認させながら、作者が「白い大きな鳥」に託して伝えたかったことについて考える。
- ・キキの生き方や考え方について考え、自分と重ね合わせる。(1時間)

7. 本時の目標

◎キキと他の登場人物との関係について考える。

8. 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援
導入	◆前時の学習を振り返る。	◆特に第三場面(展開部)において、四回宙返りを決意するに至ったキキの気持ちを振り返らせる。
展開	<p>◆各自が考えてきた、キャッチコピーや見出しを発表する。</p> <p>◆キキに四回宙返りを決意させたものは何か、考える。</p> <p>◆キキと他の人物との関係について考える。</p> <p>・キキ以外の登場人物を確認する。</p> <p>・5組の登場人物を、キキにとってどんな存在か(キキに対してどういう思いを持っていたか)によって、三つのグループにまとめるとしたら、どう分けるか考える。</p> <p>◆各自が考えたことを交流し、キキと他の人物の関係について捉える。</p>	<p>◆なぜ、そのようにキャッチコピーや見出しを考えたか、生徒の考えたことを引き出せるように働きかける。</p> <p>◆各自が考えたキャッチコピーや見出し、これまでの学習を踏まえて考えられるようにする。</p> <p>◆キキの四回宙返りへのこだわりは、周囲の人たちとの関係において生まれたものであることを捉えさせる。</p> <p>・おばあさん、観客、団長さん、ロロ、ピピの5組であることを確認させる。</p> <p>・それぞれの人物が登場する場面を、物語の初めから順に確認させながら、表現に即してその関係性を考えさせるように働きかける。</p> <p>◆キキと他の登場人物との関係を、その登場の仕方からも捉えさせ、人物を設定するにあたっての作者の意図にも迫れるようにする。</p>
まとめ	・次時の予告	

生徒の感想より

<物語を読む前に>

- ①「サーカス」って、どんなイメージ? («サーカス」と言えば・・・?)
- ・空中ブランコ
 - ・ライオンの火の輪くぐり
 - ・ピエロが出てくる。空中ブランコや人がボールの上に乗ったりしている。
 - ・ピエロ。空中ブランコ。トランポリン。
 - ・ライオン。空中ブランコ。象。火の輪をくぐる。ピエロ。

- ・象。空中ブランコ。ピエロ。外人。黄色とか赤色。
- ・楽しそうなイメージ。空中ブランコ。ピエロ。

②「サーカス」を見たことがありますか？見たことがある人は、そのときの感想も書いてください。

- ・サーカスを見たときは、すごいなあと思った。それまで寒かったのに、体がほかほかしてきたような気がする。
- ・いろいろふつうではできないことをやっていて、楽しかった。
- ・もう一度見たかった。バイクのやつがおもしろかった。
- ・すごく迫力があって、近くでやっていた。
- ・生で空中ブランコを見て、感動した。見ていて、とても楽しかった。
- ・見たことはあるが、覚えていない。

<物語を読んで>

③印象に残った場面とその理由

- ・キキが四回宙返りをやった場面。四回宙返りをしてすごいなあと思ったから。
- ・おばあさんがキキに青い水の入った小瓶をわたすところ。キキが死んでまで四回宙返りをしたところ。
- ・キキはすごく勇気がある人間だなーと思いました。三回転できることがすごいと思った。
- ・最後の行で、理由は結局キキがどこに行ったのかわからないまま終わっているから。
- ・キキが四回宙返りをしたところ。
- ・[P 74 3 1行目～最後まで]おばあさんが現れてから、どうなるんだろうと思いながら最後まで読むと、キキの様子がすごくわかる文章で、最後は悲しい結末なのに、なぜか四回転ができてよかったなあと思えて、すごく印象的だったから。
- ・キキが四回宙返りをしたところ。とてもハラハラしたし、その場面が目につかんできたから。サーカスの大テントのてっぺんに白い大きな鳥が止まっていたところ。少しかわいそうだったけど、キキが望んだことだったのかなあと思ったから。

④わからなかったところ・疑問に思ったところ・不思議に思ったところ

- ・あのおばあさんは、一体何者なのか。あの薬はなんだったのか。
- ・おばあさんは何者だったのか。
- ・おばあさんは一体何者なのか。
- ・おばあさんに渡された薬が何の薬だったかが、わからなかった。
- ・おばあさんがだれだかわからない。
- ・なぜ四回転を一回したら、もうキキがいなくて、サーカスの人気落ちるということを知ってて、四回転をしたのか。
- ・なぜ、四回宙返りをしたキキがどこにもいなくなったのか。

⑤その他に感じたことを書いてください。

- ・すごく迫力がある場面があった。
- ・キキがブランコにすごく熱心だと思った。
- ・ピエロが優しいと思った。

<ご高評価欄>

【資料3】 南小学校「かさこじぞう」 指導案

国語科学習指導案

指導者 箕面市立南小学校
吉岡 久美子

1. 日時 2007年1月24日(水)5時限(13:55~14:40)
2. 学年・組 2年3組 男子15名 女子14名 計29名
3. 場所 2年3組 教室
4. 単元名・教材名 『かさこじぞう』 岩崎 京子作・石倉 欣二絵
5. 単元目標
 - ・民話独特の語り口や、擬声語、擬態語のおもしろさ、楽しさを味わいながら音読することができる。
 - ・民話を読む楽しさに気づき、進んで民話を読もうとする。

6. 評価規準

聞く・話す	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかるように発表しようとしている。 ・話す人を見ながら、静かに発表を聞こうとしている。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちや自分の感想を文章にすることができる。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や場面の移り変わりを考え、登場人物の気持ちや人柄などを想像して読むことができる。 ・民話独特の語り口や、擬声語、擬態語のおもしろさ、楽しさを味わいながら音読することができる。
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・民話独特の語り口や、擬声語、擬態語のおもしろさ、楽しさを味わうことができる。

7. 教材について

教育センター研究員小中一貫教育カリキュラムに関する研究部会においてこれまで研究を進め、今回の研究授業に至った。前期の段階にあたる小2の子どもたちは、文字や短い文に触れ合うことから始まる小1の入門期を終え、初めて本格的に物語に出会う。「かさこじぞう」に出会うまでに、1年生で「はるのゆきだるま」、2年生で「のはらのシーソー」「雨の日のおさんぽ」「ニャーゴ」「名前を見てちょうだい」という物語に出会ってきた。これらは、書き出しに場面設定が述べられている「安定した形」の物語文である。そして、これらの物語を経て「かさこじぞう」で初めて民話に出会う。民話とは、言語文化の土台にあるものを学ぶことができる「物語の雛形」である。聞きなれない言葉が多く、2年生の子どもたちにとって最初は理解しにくいかもしれないが、「安定した形」の「物語の雛形」を通して、場面と場面の因果関係、展開を2年生なりに学ぶことができるであろう。

本教材「かさこじぞう」は、貧しくとも常に明るさと優しさを失わずに生きようとするじいさまとばあさまが、自分たちの貧しさをかえりみずにじぞうさまにかさをかぶせ、思いがけない果報を得る物語である。人間として大切なものは思いやりの心であり、その心があれば貧しくとも幸せになれる。生きていく中で、本当に大切にしなければならないものは何かということを考えさせてくれる作品である。また、じぞうさまや神に対する素朴な信仰心が、じいさまとばあさまの様々な言動から伺えることも興味深い。現代人の意識の中では薄れかけている神への信仰心が「お正月さん(年神様)がござらっしゃる」「(自分たちが食べるのではなく、お正月さんにお供えするための)こめのもちこ」などという言葉で表れているのである。このような現代との違いは文章表現にも表れている。民話特有の書き出し「むかしむかし、あるところに、じいさまとはあさまが ありましたと。」や「とんぼり とんぼり」「じよいやさ じよいやさ」といった擬態語や擬声語などのリズムカルな言い回しが所々にあり、子どもが読み親しみ、しかも楽しみながら音読できるように工夫されている。

8. 指導にあたって

本学級には、文学教材の学習において登場人物の気持ちや場面の様子を自分なりに読み取り表現できる児童もいる反面、人前で発表したり音読したりすることの苦手な児童もいる。そのため、授業の中で音読を中心とした表現活動を取り入れている。具体的には、一人で読む場を増やしたり、大きな声のでない子にはグループで一緒に読ませたりと、声をだす機会を増やしている。また集団としては、一つの事柄をゆったりとした雰囲気の中で考え深めていくといったことや話を最後まで聞くといったことが苦手である。「話している人に目とおへそを向ける」「最後まで黙って聞く」といったルールをもう一度確認するとともに、1時間内の活動を2つか3つに分け、子どもたちの集中力が途切れないようにしている。

2年生の子どもたちは物語を読むのが好きで、物語中のできごとや人物の言動に対しておもしろさを感じたり話の展開を予想しながら読むことができるであろう。また、何度も音読を繰り返すことにより民話独特の語り口や、擬声語、擬態語のおもしろさ、楽しさを味わうことができる。『かさこじぞう』では、物語の本文を大切に、文章の中から人物の人柄を表す言葉に気づき、さらに人物の行動や心情、場面展開を読み取る力をつけたい。そのために、この物語を読む上で知っておきたい日本のお正月や「おじぞうさま」などについては、事前に本を読み聞かせたり、家族に話をきいてくるなどして興味をもたせることも必要であろう。このような活動の中で、じいさまとばあさま、じぞうさまの温かい交流を感じ取り、温かい気持ちを皆で共有したいと考える。

9. 指導計画

第1次 全文を読んで話のあらすじをつかむ。

第1時 かさこじぞうを読み、初発の感想を話し合う。

第2時 登場人物を確認し、場面ごとに分ける。

第2次 本文を読みとる。

第1時 「たいそうびんぼう」という言葉から、二人を取り巻く状況を読み取る。

第2時 大年の市で売るじいさまの様子を読み取る。

第3時 じぞうさまにかさこやてぬぐいをかぶせたじいさまの人柄を読み取る。(本時)

第4時 じいさまと同じようにやさしいばあさまの人柄や、明るく楽しく年越しをしようとする二人の様子を読み取る。

第5時 贈り物をおいて帰ったじぞうさまが、二人のことを歌ったわけを考えながら読む。

第3次 学習の発展

第1時 今までの学習を振り返りながら音読をし、感想を書く。

第2時 かさこじぞうの群読をする。

第3, 4時 他の昔話を読み、感想を話し合う。

9. 本時の目標

- ・吹雪の中、じぞうさまにかさこや手ぬぐいをかぶせるじいさまの優しさを読み取ることができる。

10. 本時の展開

学習活動	教師の働きかけ	評価・準備物
<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1・2場面を音読し、前時までの内容を振り返る。 ○ 第3場面を音読する。 ○ かさこが売れずに落胆するじいさまの気持ちを振り返る。 ○ じぞうさまの様子、天候(吹雪の中)を確認する。 ○ じいさまのしたこと・言ったことから、じいさまの人柄を読み取る。 ○ 第3場面を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <とんぼり とんぼり>に注目させる。 ○ <おどろはなし、木のかげもなし～。>に注目させる。 ○ 動作化で確かめながら、じいさまの動作や気持ちに目を向けさせ、じいさまの優しさを感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ じいさまの気持ちを振り返ることはできたか。 ○ じいさまの気持ちを想像しながら、進んで動作化できたか。 ○ 自分なりの読みが表現できたか。

【資料4】 第六中学校「トロッコ」 指導案

国語科学習指導案

箕面市立第六中学校

指導者 梶原 郁代

1 日 時 2007年2月7日(水) 6時限目(14:25~15:15)

2 学 年 1年4組 男子20名 女子19名 計39名

3 単元名 物語「トロッコ」

4 単元目標

- ・良平の心の変化を、自分の体験と照らしながら読み味わう。
- ・場面の描き方の工夫をとらえ、味わう。

5 指導にあたって

本教材は、1年生最後の物語、小説教材である。民話的な雰囲気を持つ物語「竜」から、ファンタジー性を持つ「空中ブランコ乗りのキキ」の物語を経て、本格的な小説を学習することになる。

「トロッコ」は中期(小学5・6年、中学1年)の締めくくりに位置し、「走れメロス」や「故郷」といった後期(中学2・3年)につながっていく入り口にもなる教材である。中学1年の物語教材としては、技巧に優れ、描写が複雑であり、中学1年生に理解しにくい部分もあるかと思われる。が、主人公の心の変化を巧みな情景描写とともにとらえ、味わわせたい。また、登場人物の言動について、生徒たちがどうとらえたのか、なぜそう思うのかを考えさせることで、自分の体験と重ねて読みを深めさせたい。

教育センター研究員小中一貫カリキュラムに関する研究部会において研究を進め、今回の研究授業となった。

本教材は長く教科書に掲載されてきた定番のものであるが、生徒たちが読みを深めていく中で自分なりに感想や意見を持ち、表現させていきたい。

6 学習計画

第1次 全文を通読し、あら筋を把握する。

第1時 トロッコを読んで、初発の感想を書く。

第2時 難語句の意味を調べる。

第3時 5W1Hを確認しながら、時代背景について知り、小説の描かれている時代の理解につなげる。(資料1)

第2次 場面分けをして、全体の構成をとらえる。

第1時 全体を場面ごとに区切りながら読み返す。
場面ごとの内容をまとめる。

第3次 表現に注目しながら場面を丁寧に読み取る。

第1時 良平のトロッコに対する思いを読み取る。(第1場面)

「~と思う。」「トロッコは・・・」という表現に注目させる。

第2時 初めてトロッコに乗った時の良平の様子や気持ちを読み取る
(第2場面)

第3~5時 場面の移り変わりや良平の心の変化を読み取る。

(第3~6場面)

情景描写、良平の言動、時刻を表す言葉、気持ちなどに一線を引き、自分のイメージで線路と風景画を描き入れ、ワークシートにまとめていく。(本時)

第4次 作品全体をとらえ、良平の人物像について考え、自分の考えや意見をまとめ発表する。

第1時 第7場面の持つ意味や、現在の良平の生活や人物について考える。物語の構成をとらえる。

第2時 登場人物の言動について肯定・否定の意見を持ち、その理由を考える。意見の交流

第5次 優れた表現に注目し、作者やトロッコの作品について学習する。

第1時 文体の特徴をとらえ、優れている表現を発見する。作者について学習する。

7 本時の目標

表現に注目しながら良平の心情の変化を読み取り、ワークシートにまとめる。

8 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援
導入	・前時の学習を振り返る	・ワークシートでこれまでの良平の行動や気持ちを振り返らせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに区切って読む。 ・時刻や良平の心情、情景の変化を読み取り、教科書に一線を引く。 ・読み取ったことを発表する。 ・ワークシートにまとめる。 ・良平の走った距離、帰宅した時刻を考える。(資料2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の時、表現に注目して読むように促す。 ・時刻、行動・様子、心情、情景に一線の種類を変えて引くように指示する。 ・黙読して一線を引かせる。 ・時刻、行動・様子、心情、情景に分けて板書する。 ・情景描写に心情を読み取らせる。 ・時刻や距離がわかる表現から考えさせる。 ・各自で工夫してまとめさせる。
まとめ	・次時の予告	

トロッコ 第三編(第五場面) 良平の一日(まとめ)	
時刻	良平の行動・様子
星野の寝る時	良平の寝る様子
星野の起きる時	良平の起きる様子
星野の走る時	良平の走る様子
星野の帰宅時	良平の帰宅の様子
星野の寝る時	良平の寝る様子
星野の起きる時	良平の起きる様子
星野の走る時	良平の走る様子
星野の帰宅時	良平の帰宅の様子
星野の寝る時	良平の寝る様子
星野の起きる時	良平の起きる様子
星野の走る時	良平の走る様子
星野の帰宅時	良平の帰宅の様子